

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。

京都市基本計画審議会

レポーター 藤川 祐輔さん

うどんの国香川県で生まれ、東京で育ち、
京都で学ぶ。立命館大学政策科学部の3
回生。第6回政策系大学院研究交流
大会実行委員長

第5回まちづくり部会

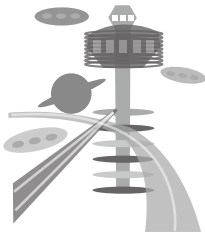
開催日：平成22年4月5日(月) 会場：本能寺文化会館

主な議題：京都市の将来の都市構造及び基本計画第1次案分野別方針(都市づくり、景観、歩くまち、都市基盤、住宅、建築物、消防・防災、くらしの水)についての検討

POINT

1

メリハリあるまちづくり



今回の会議では今まで分野ごとに扱ってきたことを総括して議論しました。将来の都市構造の長期を見通す視点の中に、保全・再生・創造を「メリハリをつけて考える」ことも加えるべきだという意見がでました。また、都市構造のイメージを共有するために、マンガなどで分かりやすく示すことも必要だという話になりました。

会議の
ポイント

POINT

2

まちづくりの視点



基本計画1次案のまちづくりの各分野について話し合われました。長期を見通す新たな視点に「京都らしさの継承・充実」とあるが、「京都らしさ」とは何か？人それぞれとらえ方が異なるのではないかと、という意見や、10年先に日本の手本となるまちになるよう、今から将来を展望した姿勢を持たなければならないのではという意見が出ました。

この会議を傍聴して
藤川さんが思ったこと

今回の会議での議論は、まちづくり部会でこれまで話し合われてきたことの総括でしたが、会議内容はそれほど横断的な議論にはなっていなかったように感じました。まちづくりの各分野はバラバラではなく、重なり合う部分があります。無電柱化され、町並み景観に配慮した美しい道路が整備されてこそ、町並みを楽しめ、歩く魅力を感じるまちとなりますし、京都らしい住まいである京町家は、京都固有の景観形成に寄与しています。また、ハード面の整備だけでなく、「京都らしさとは何か」を考える際に議論にあがっていた「住民の自治力」というソフト面でのまちづくりを横断的に考えていくことも、今後10年を考える上で必要ではないでしょうか。

まちづくりにおいて市民から市政に積極的に関わっていくことができる、ソフト面での仕組づくりが必要です。そのためにまず、まちづくりに関する問題に対して、市民が「意外と身近な問題なんや」「こうしたら解決できるんや」と気付くきっかけとなる催しなどを行政やNPOなどが積極的に開催してはどうでしょう。「百聞は一見にしかず」というように、問題の認識をきっかけに、市政に関心をもつ市民は確実に増えると思います。また市民側からも、自分たちのまちの課題を解決していくために、普段からワークショップを開催するなどして、課題を住民間で共有し、責任を持って主体的に関わることも必要です。行政も積極的にそれらの取組に参加し、長期的な視点で市民と共にまちづくりを行ってほしいです。

私ならこうする
未来の京都に向けた
藤川さんの提案

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

